

第20回 商社対抗野球大会

5月12日(火)から参加23チームで行なってきた第20回商社対抗野球大会は、8月5日(木)早朝6時よりの決勝戦で、森佐(株) (北島(株)、久江田(株)との連合チーム)が丸与商事(株)Aを延長8回、9対8で破り6年ぶり2回目の優勝を遂げた。

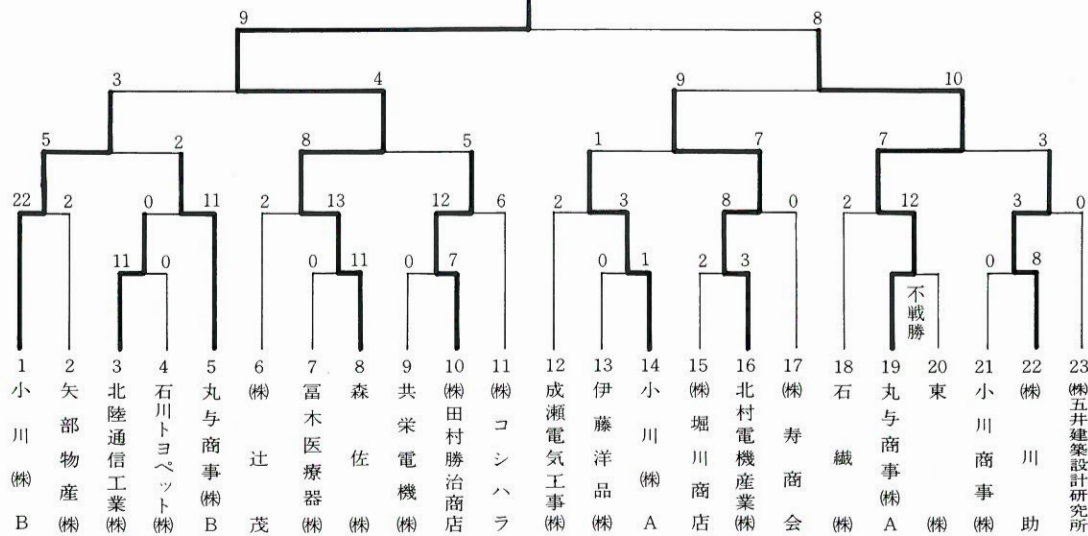
- 優勝 森佐(株)
- 準優勝 丸与商事(株)A
- 第3位 小川(株)B
- 北村電機産業(株)
- 最優秀選手賞 長永 勇 (北島(株))
- 敢闘賞 平野 渉 (丸与商事(株))
- 打撃賞 森 一夫 (森佐(株))

森佐(株)・亀井監督の話

「試合を通じて人の和を保ち、楽しくやれば良いんですが、チームも高齢化してるので、こゝろで優勝したかったです。決勝戦は相手も最後まで試合をすてなかったのが苦しかったです。来年はトーナメントよりもリーグ戦を狙います。」



優勝 森佐(株) 優勝 森佐(株)チーム



金沢問屋団地野球連盟 昭和62年度成績

昭和47年に結成、16年目を迎えた金沢問屋団地野球連盟は、団地内の親睦をはかるとともに、愛社精神の高揚と心身の鍛練、交通三悪(飲酒、ひき逃げ、無免許)追放を目的とし、今年は参加10チームのリーグ戦方式で4月14日(火)より約6ヶ月間行なわれた。今年は近年まれに見る混戦状態で9月末時点で5チームに優勝の可能性があったが、(株)田村勝治商店が終盤の連戦をもとせず全勝で、3年ぶり2回目の優勝を遂げた。

○…勝 ●…敗 ●…引分
△…不戦勝 ▲…不戦敗

	丸与	森佐	寿	田村	北村	小川	北通	石織	丸昌	共栄	成績	順位
丸与	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	5-3...1	④
森佐	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	5-4	⑤
寿	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	2-7	⑧
田村	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	9-0	①
北村	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	8-1	②
小川	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	6-3	③
北通	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	1-7...1	⑨
石織	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	4-5	⑥
丸昌	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	3-6	⑦
共栄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	1-8	⑩

金問屋センターニュース

1987.11

No. 39

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町2丁目61番地 ☎37-8585 ●発行者/小川甚次郎



20周年記念式典を終えて

協同組合 金沢問屋センター

理事長 小川 甚次郎

去る10月28日に挙行了しました団地完成20周年記念式典は、組合員各位のご協力により、無事終了致しました。厚く御礼申し上げます。

顧みますと、私共が昭和38年10月に120企業が参加して協同組合金沢問屋センターを設立し、経営の合理化、店舗用地の拡大、労働力の確保、共同事業の推進、交通難の打開を目的に検討を進め、金沢駅西地区に新しい土地を求めて集団移転することに決定し、その後、国・県・市・商工会議所・金融機関の絶大なご支援と、地元農業関係者のご協力により、83,000坪の土地を買収造成し、40年4月より店舗建設に着手、幾多の苦難を乗り越えて42年10月14日に101社で完成式を挙げる事が出来ました。

爾来、順調に毎年新しい企業が加入し、47年までに組合員総数131社の総合卸団地が完成、更に新しく加入希望者が増したため補完事業を計画し、隣接地区に16,000坪の店舗用地と5,000坪の運動場用地を買収・造成し、50年度より店舗建設に着手して現在27社が第1次団地組合員と共に営業中であります。

振り返ってみますと、今日迄は企業の集団化の20年であったと言えます。

この20年を境として、これからは産業構造の変革や国際化、情報化時代の環境の下、我々流通業界としては激しい経済変化に対応するため、情報武装による集団化で対処すべく、心を新たに集団化当時の原点にかえり、組合員一同、一致団結して一層の努力を傾注しなければならないと痛感する次第であります。

組合員各位の尚一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

20周年をむかえ誓い新たに

— 盛大に記念式典開催 —

金沢問屋センター完成20周年記念式典は11月28日、金沢流通会館大ホールにおいて、奥田衆議院議員、杉山副知事、江川金沢市長、宮商工会議所会頭はじめ多数の来賓ご列席のもと、組合員、関係者が500名出席し、20周年の節目をよこぎあつた。

式典では、物故組合員に対する黙とうのあと、小川理事長より「経営の合理化などを目的にこの地に集団移転し、今日まで苦難の道を共に歩んできた。現在の厳しい経済情勢を前に、集団化の初期の原点にかえり、企業発展に一層の努力を傾注しなければならない」と式辞をのべた。このあと越井清太郎副理事長に中小企業庁長官表彰、宗広満夫、荒木登、川上嘉一、高桑健治の各副理事長に中小企業事業団理事長表彰が授与され、勤続20年以上の52社、277名の永年勤続優良従業員が表彰され、受表彰者を代表して、(株)マツモト、南保弘氏より謝辞が行われた。(名簿別記)

続いて来賓の奥田代議士より、「全国卸団地のなか

で最も優秀な団地に発展され、非常によろこばしい。今JR西日本の新幹線、取引税、福祉問題等、経済環境も非常な変化をしている。この20年の歴史を基盤として、さらに一致協力し、ますますの発展をいのる」との力強い激励のあと、中小企業庁塚本課長、中小企業事業団森口理事長、杉山副知事、江川市長、宮会頭より「中小卸業者の経営を取り巻く環境は厳しく、マーケットの熟成、消費者ニーズの多様化、個性化、情報化による変化は非常にげしいが、この20年を期に、今一段の発展と新しい21世紀の第一歩にしていたきたい」との祝辞をいただき、厳粛の内にも盛大に記念式典をよこぎあつた。

同日午後からは、同会館において、懇親パーティが開かれ、和気あいの内にも、この20周年を基に、明日の地域産業の活性化をめざし、協業化、集団化のメリットと先見性をもって、協力一致のもと問屋センターの隆盛と企業の発展を誓いあつた。



20年以上勤続優良従業員被表彰者名簿

《石織株式会社》

上田敏夫
瀬木喜久雄
伊関衛
森美喜雄
上島邦子
村上辰之
平野太吉
松江正輝
表克彦
長山功
木下和彦
山本正浩
山崎保

《糸生株式会社》

前田定志
秋田栄一

《石原洋装店》

越野志津子

《岩崎株式会社》

竹田好俊
川島外司

《小川株式会社》

有松一松
見定修
長与義
本田豊志
紺谷進
山越義明
松田誠治
内田保志
紺村外喜男
森下孝子
新井茂信
橋正信
西田重隆
乙村陽一
中川俊雄
長堀勇

持田正博

太田永佐夫
野崎行則
佐野裕保
堀貫進
三田俊行
倉坂房江

《小川商事株式会社》

山崎博史
中居昭治
五寶長五郎
村上勝弘
山岸茂夫
大田駿
西尾克己
土橋善弘
平野満

《岡本株式会社》

高島久信
原武夫

《北島株式会社》

小菱靖夫
崎田俊英

《越井商事株式会社》

吉田芳雄
庭田和雄
小山勝枝

《株式会社賛協》

檜木繁男
川野勇

《島崎株式会社》

沢川徹
宮下武夫

《多田与株式会社》

浜本喜久男

《玉田商事株式会社》

竹内義久
井上雄三

《株式会社丸昌》

今川昭義
前川進
吉本耕志
橋本徹

《丸与商事株式会社》

西野和子
島村正義
松永邦夫
川渕紀臣
定舎勝利
杉宮一雄
中岡滋
小西敏夫
森多市朗
根布俊輔
浜村勉
今川恵正
金子幸夫
嶋実
亀田茂視
山田良之
秋田光久
山本政昭
寺井慶二

《株式会社室七》

朝山宏
近本勇吉

《森佐株式会社》

高島吉雄
金子庄三郎
亀井清
中島英一
市田洋
村田吉久
宮本秀夫

《山和株式会社》

藤田正
大窪輝雄

安居繁範

篠原伸次郎
徳野外喜夫
田中敏行
能田敏朗
大岩外喜男
清水市郎
吉岡昇
鳴尾実
森田勝也

《山和ソーイング株式会社》

下出敏郎
城村良金
村井政二
河内外祐
荒井清
岡田久美子
江藤政江
末村昭子
三浦さだ子
大野千恵子

《株式会社有萃》

吉田勝一
横川輝夫
中村和之
室賀修
竹井克幸
西多美子
本多美嶺
野口貞子

《荒木商事株式会社》

洞庭守
美多耕平
川村孝一

《川上産業株式会社》

高平隆興

《株式会社川助》

本谷正昭
小浦智憲

瀬端幸二
 《金沢機工株式会社》
 蓮池良平
 島永英夫
 大森勝
 盛口外之
 浅田晃正
 《北村電機産業株式会社》
 小島修一
 立野静枝
 村中徳美
 万上博義
 《共栄商会》
 増山孝之
 表勝久
 東留明
 中田睦行
 《共栄電機株式会社》
 山岸清
 石川立夫
 寺西外志和
 坂本弘
 寺井登
 新田忠夫
 高良元
 本橋次夫
 苗代浩正
 岩田秀雄
 苗代義則
 《クスノキ株式会社》
 武田達郎
 《弘進ゴム株式会社》
 田形八十雄
 安田正勝
 《株式会社 コシハラ》
 北元光雄
 安土五明
 本沢信夫
 小堀明
 長瀬輝雄
 原田雄平
 森若義明
 坂尻利夫
 中村与吉

《尚和印刷株式会社》
 山口貞雄
 中島一夫
 富樫正勝
 高田義昭
 和泉外志子
 《株式会社 七宝商事》
 黒坂寧
 筆典夫
 《須田株式会社》
 後滋
 和田誠郁
 鈴木光明
 荒木和夫
 玄田茂
 片岡和子
 《株式会社 タマイ》
 本保堯
 《中央自動車工業株式会社 金沢営業所》
 浅野修三
 田之畑喜好
 幸田文雄
 《富木医療器株式会社》
 上田俊光
 渡辺弘道
 福島清和
 吉村省三
 下村多加郎
 《東和工業株式会社》
 下条正博
 《中川薬品器材株式会社》
 中川和之
 遠塚保豊
 吉光勇雄
 《株式会社 永井商店》
 中西忠男
 岡本利夫
 山口信雄
 高村洋子
 《成瀬電気工事株式会社》
 本田雅生
 高田健一
 涌村隆

池田良夫
 尾崎弘
 興津敏夫
 石倉忠吾
 《株式会社 東山商会》
 前久雄
 浦野明
 高井幸三
 《百萬石酒造株式会社 金沢営業所》
 里衛
 野口幸雄
 市野重信
 塚西協三
 井原静孝
 岡田豊美栄
 《北陸通信工業株式会社》
 日向忠雄
 鍛冶彰秀
 福田章
 浅田暁
 紺田威
 坂下四郎
 森靖男
 池端勝司
 山口寿彦
 平岡隆雄
 福島外茂造
 飯塚秀夫
 森武支
 玉木彦蔵
 黒沢章
 中山正喜
 金田一則
 小村光昭
 《北日商事株式会社》
 野崎哲司
 北茂則
 北野秀次
 加藤弘
 喜田音吉
 吉倉保治
 《北陸ペイント株式会社》
 浅井猛

今井登喜夫
 田中修二
 《株式会社 マツモト》
 南保弘
 大川善清
 《株式会社 丸菱》
 武田文英
 森田紀三男
 浜浩一郎
 田中長次
 水野昇
 《明希株式会社》
 寺下外雄
 西道保
 岡本正昭
 土生幸三
 上川義久
 柿沢章
 山崎克雄
 石野幸長
 中村高扶巳
 村上謙治
 坪田喜久男
 林孝
 高橋孝吉
 浅尾好孝
 《矢部物産株式会社》
 小幡秋夫
 小谷憲正
 松本外喜男
 《理光商事株式会社》
 遠田孝太郎
 稲垣哲一
 《一恵商店》
 吉井金次郎
 稗島健三
 桑原日出夫
 奥谷茂夫
 中谷功
 秋田正彦
 《協金沢問屋センター》
 関戸孝
 中井洋
 南明子
 (277名)

完成20周年記念講演会

21世紀への生き残り戦略

《10月29日》 評論家 角間 隆氏



最も大切なのは、一つは世の中が完全に情報化社会になりつつあるということ。一つは世の中が完全に国際化しつつあるということ。

その中で自分達の商売ですから、例え金沢の間屋団地であっても、この影響を受けないで自分達だけでこれまでのように商売出来る環境というのは、もう全く残されていないということがポイントだと思います。当然情報のアンテナも非常に高く掲げながら、内心気持の中では新人類とつき合うのは嫌だなあと思っ

ても、やっぱりつき合わなくちゃいけない。たまにはノノもアンアンも買ってきて読んでみると、ものすごい商売の役に立つようなことも書いてあるわけです。最近盛んにベイエリアという言葉がありますがけれども、これなんかも今世の中を大きく変えつつある。ベイというのは、湾とか水辺ということですね。それで一番目覚ましい発展をしているのがアメリカのマンハッタン。ニューヨーク子が全部集まって大変な賑わい

です。前まではドブ臭い、魚臭い、そんな所だったんですけど、そこに集まっているかと思うと、今度はウエストサイド物語で有名なハドソン川添いのアップタウンの、本当にハーレムに近い所、ここが今まで誰も住む者がいない危険な所だというんで、地価が殆んどただ。アパートなんか誰も借りる者がいないので家賃もいらないう所だったんですけど、ここが今一番値段が上がっています。同じことが東京でも、これ

まで芝浦という海辺のヘドロの臭くてやってられないという所が、東京マンハッタンと呼ばれて、もうすごい勢いで伸びています。そこにあるのは倉庫だけ。倉庫のことをロフトといいますけども、その倉庫がものすごい値段がついて、みんな貸してくれ貸してくれ

という感じで、その中を改造してそれをディスコにしている。この前まで六本木で踊っていた若者達は、みんな芝浦まで行って、その倉庫の中で踊るのが一番カッコいいと、そこに行けば一番可愛い子がかまえられるというんでみんなそこへ行くようになります。と、何となく六本木がダサイんじゃないかというような感じになって流れが変わってくる。これをロフト文化といまして、例えば、金沢なども金沢港、折角つくったけれどあれは失敗だったんじゃないかと盛んに言われますけども、このベイエリアムードからいうと、今のうちに金沢港の回りか粟ヶ崎かを確保しておいた方がいいが

ないかなあと思うがやぞ。今本当に水辺、海辺というのは何故か、どんなに臭くても若者はそこに行く。そこで最近驚ろいたのは、大正ロマンというんですか、何となく竹久夢二の世界から抜け出て来たような格好で着物を着るのがはやっています。その着物も昔の晴着という感じじゃなくて、洋装をそのまま着物にしたというような柄がありますね。ちょっと茶色い色のダーク系統の、あれがすごくはやって、ニュー

着物というらしいんですが、それに安い値段をつけて、例えば京都の老舗が堀留あたりで盛んに開発しています。今、着物を着てハイヒールを履いて芝浦のドブ泥の所でディスコを踊る女の子というのが一番のお嬢様だという様な雰囲気なんです。そういうのがみんなアンアンとかノノとかぴあとか、聞いたことがないような雑誌に書いてあるので、そういうのを嫌だ嫌だといわないで、ちょっと見るとか、たまには自分の会社の若い女の子に色々と教を請うとか、それ位のやっぱり柔らかさが必要なのではないですか。特に流通業界というのはそういうことじゃないんですか。これはまたメーカーだと違うと思うんですけども、この商売というのは一番ナウイ時代の最先端であり、これが変わることによって社会も何回か変わってきたわけなんですけど、流通がまず変わってきたわけです。そういう意味では一番の最先端の人ですから、せめて一辺位は倉庫で踊ってみる位の勇気で、今度行ったら芝浦あたりをうろつくのも手じゃないかと思

います。思いもかけない可愛い子がかまかるかもしれません。いずれにしても、そういう時代の巨大な流れ、色んなことがありますし、それは全部有機的に全部繋がっている。そういう中の頂点にいるのが最近盛んに言われていますソフトノミックス。ソフトはやわらかな、エコノミックスは経済、やわらかな経済、ソフトノミックスというのは何かというと、皆様の商売を中心にした物の流れと情報の流れ。特にソフトノミックスの中で重要視されているのは、これまでのような物の流れというのは、もうかかたててしょうがない。いちいちトラックで運ばないとと銭にならないというようなものは効率が悪くしょうがない。それならば電話線の中を全く重さも無く伝わっていく情報というものを扱うことの方が付加価値は遙かに高いんじゃないかという考え方、それがソフトノミックスですから、皆様方の流通商売が半分は物流であったかもし

物故組合員追悼法要

金沢問屋センター20周年行事の一環として、物故組合員の追悼法要が秋晴れの10月25日(日)午前10時より、金沢東別院に於いて、遺族20名、各社代表60余名が出席して、しめやかに営まれた。

本堂内陣の仏前には、物故者20名の遺影(写真)が飾られ、おごそかな読経に入り、小川理事長より物故者への追悼の言葉のあと、遺族ならびに各参詣者の御焼香が行なわれ、藤谷輪番導師より法話も頂戴し、遺族一同感激ひとしおの一時であった。

最後に、遺族を代表して共栄電機(株)社長高桑健治氏より本日の追悼法要のお礼の挨拶があり、その後、御堂前で遺族ならびに参詣者一同の記念撮影があり、物故組合員追悼法要をとどこおりなく終えた。



故 吉野省吾さんを偲んで



伊藤洋品(株)会長
伊藤 四郎

「伊藤君、これでネクタイを作って呉れないか。」吉野さん自らが私のところへ友禅染の反物を持ち込まれたのは38豪雪も漸く収まり、車がやっと通れるようになった頃です。

数日経って加工上りを持参すると、大変喜ばれ早速その場で上着を脱いで出来上がったばかりの新しいネクタイを締められました。

「吉野さん、一段と男前が上ったがいね」と言う。「そいが、そいが」と言って相好を崩されました。私にとって吉野さんは同じ越中人同士でもあり郷土の大先輩でした。

吉野さんはどちらかと言うとおしゃれ等にはおおよそ縁遠くその飾り気のない性格は服装にも現われ、いつも折り目のないラップズボンを着ては平気でしたがこの加賀友禅のネクタイだけは光っていました。吉野さんはこの頃から持病の糖尿病が進み、歩行もまたよたよたするようになりましたが、ひとたび問屋集団化の話になると、人が違ったように生き生きと語り続け止まることを知らず遂に相手を説得せずにはおかないと言う不思議な能力をお持ちでした。



このようにして病身で風采の上らぬ男、吉野省吾。接する人々はそのぼそぼそとした口調から真実を汲み取り、声援を送ることを惜しまなかったのです。病身とぼそぼそ口調、今にして思えば見事でも巧まざる演出でした。

これこそが今日の間屋センターの原点だったのです。当時、私達は毎週2回尾山神社前の事務所に集まり吉野さんを中心に問屋集団化について熱心に討議を続けました。当時の出席メンバーは次の方々でした。高田、吉野、若林、小川甚、牧口、大沢、北島の各氏に私を加えて8名の構成でした。私は新規組合員の加入申込の窓口を担当する傍、時には吉野さんの意を受けて県庁への使い走りをしたり、又、時々吉野さんのお伴で中小企業庁へ陳情に出かけたりしました。新橋の第一ホテルのツインルームで夜明け近くまで語り合ったことが懐しく思い出されます。

この度広報誌発行にあたり、追慕の念にかられ、執筆した次第です。

第15回 社員園遊会

恒例の社員園遊会は10月3日(土)、会館前道路を歩行者天国にして賑々しく開催された。

好天に恵まれ、団地内の商社員はもとより、近隣の主婦たちがくり出し、近來にない人出となった。

“のみの市販売大会”では団地商社38社が、会館前道路と大ホール・パルス内にテントを張り、格安商品を求める人達で賑わった。

おなじみの模擬店や手相鑑定の他、トライアルバイクのデモンストレーションとチビっ子BTRの妙技が披露され、鮮やかなテクニックが観客の拍手を呼んでいた。



完成20周年記念

社員と家旅 親睦旅行

組合では、団地完成20周年を記念して、社員とその家族を対象とした親睦旅行をJR西日本の協力のもとに企画し、8月2日(日)、57社412名の参加で実施した。

一行は朝7時9分金沢駅を出発、一路目的地の白馬へ向かった。糸魚川駅でバスに乗り換えてから交通渋滞にまきこまれ、白馬到着が予定より約40分遅れたが、現地では晴天にも恵まれ、参加者は八方尾根方面、みそらのエコーランド方面、グリーンスポーツの森方面に分かれて約4時間、北アルプスの街を散策し楽しい1日を過ごした。



写真コンテスト

優秀賞 同信産業(株) 渡辺淳子
「子どもの国へ出発だ!!」

商団連事務局長会

商団連事務局長会は、年1回は東京で、1回は地方でと年2回開催しており、今年度の地方開催は去る9月17日・18日の両日、全国の85団地から90名の関係者が参加し、当組合で開催された。

初日の17日は中小企業庁・黒沢取引流通課長補佐より、現在の行政指導の方針について説明があり、中小企業事業団・高田融資部次長、海堀商業助成課長代理より、この春から改正された高度化制度の内容について説明と実務面についての指導が行なわれた。

このあと分科会に移り、建設省・佐々木市街地建築課長補佐、前公正取引委員会委員・宗像善俊氏より各法の解説があり、熱心な質疑応答のあと第1日のスケジュールを終了した。

2日目は、会場を和倉温泉加賀屋に移し、長崎屋鈴木物流部長より、これからの中小卸売業の物流のあり方について、(株)流通プレーン柳沢代表より卸団地のニューメディア対応について講演があり、2日間にわたる研修を終了した。



